

仙台空港付近に新倉庫

協和運輸倉庫

協和運輸倉庫（高橋大輔社長、仙台市宮城野区）は6年ぶりに設備投資を行っている。宮城県岩沼市に倉庫を建設し、高度化・多様化する顧客ニーズに対応。昨年11月に着工しており、今年7月に完成する予定だ。

高橋社長は「将来を見据え、人材確保・育成や業務の見直しなど、内面の充実強化に注力してきたが、営業面の強化も考えていた。しかし、東京五輪・パラリンピックの建設需要などで建設費や資材価格が高騰。ようやく一段落した」とし、2014年の仙台LCC（宮城県大和町）増設以来の倉庫建設となった。

仙台空港に隣接する矢野目西産業用地内に普通倉庫「岩沼物流倉庫（仮称）」を建設。敷地面積が1万8770平方メートル、鉄骨造り平屋建てで、床面積は9140平方メートル。工業品の保管・配送拠点となる施設で、製品の出入荷に適する高床式にした。また、東日本大震災の教訓を踏まえ、随所にBCP（事業継続計画）に対応した設備を設ける。同産業用地は岩沼市が分譲する用地で、総面積が17

設備投資6年ぶり



昨年11月に着工しており、今年7月に完成する予定

・7畝。仙台市の中心部から南方17キロに位置し、仙台空港や仙台東部道路、国道4号、同6号、更には地方主要道から仙台国際貿易港にもつながるなど物流拠点に適している。分譲する8区画のうち、協和運輸倉庫を含め、物流企業3社が売買契約を結んでいる。

新倉庫は第1期工事とし、需要を見ながら第2倉庫の建設も視野に入れる。当面は既存荷主の保管・配送の拠点となるが、仙台空港や仙台港に近い立地を生

かし、国際貨物などの需要開拓にも力を入れていく。高橋氏は「仙台市の南に位置する岩沼物流倉庫が完成すれば北の仙台LCC、中央の本社地区倉庫、東の仙台港倉庫と仙台圏ネットワークが完成する。顧客に物流効率化を提案し、最適な物流サービスを提供したい。また、雇用を通して地域社会にも貢献したい」とし、全社で新たに5577人程度（新卒含む）の雇用を予定している。

（黒田秀男）